

## IEC TC 100シアトル会議報告

本年5月19日（月）～23日（金）に米国シアトル市内の Renaissance Seattle Hotel で IEC（国際電気標準会議）TC 100（AV・マルチメディア、システム及び機器）の AGS（戦略諮問会議）、AGM（運営諮問会議）及び傘下グループの会議が開催され、活発な審議が行われました。その中から、いくつかの重要な議案について紹介します。

### TC 100 概要

IEC/TC 100（AV・マルチメディア、システム及び機器）：1995年10月に設立  
2004年1月より日本が幹事国を務めており、現在、国際幹事：江崎（ソニー）、国際副幹事：長谷部（東芝）、井口（パナソニック）、Pメンバー（投票権を持つ国）：23カ国、Oメンバー（オブザーバーの国）：21カ国、傘下に13のTA（Technical Area）がある。なお、TC 100の受託審議団体は JEITA であり、TC 100国内委員会を運営している。

## 1. 新テクニカルエリアの設立

昨年9月に中国広東省深圳で開催された TC 100総会にて、AAL（自立生活支援）、ユーザインタフェースに関する新 TA 設立が提案され、その後、タイトル、スコープ、役員等について審議を重ね、今年5月、TA 16の設置が合意されました。

タイトル：Active Assisted Living, Accessibility and User Interfaces

議長：Dr. Kate Grant（イギリス）

幹事：Ms. Ulrike Haltrich（ドイツ）

TC 100では、2007年当時から高齢化対策に取り掛かり、テレビを中心に TC 100スコープ内の家電製品の操作性、アクセシビリティを向上させるニーズに対応した IEC/TR62678 を2010年に出版しました。また、高齢者

を含め目の不自由な方等に向けた音声読み上げ機能（テレビ向け）を標準化し、2013年 IEC 62731 を出版しました。

IEC 全体では、2011年ドイツから高齢化対策として SMB 傘下に SG5（AAL）設立を提案し活動開始、TC 100 では、2012年 AGS 傘下に Stage 0 project を開始させ、TC 100スコープ内の AAL ユースケースの収集、分析を目的に IEC/TR62907の策定を開始し、近々に出版予定です。このように TC 100では、自立生活支援やユーザインタフェースを重要課題として取りあげてまいりました。最近では、イギリスから提案されたデジタルテレビ向けアクセシビリティ向上を目的に新しいプロジェクトが承認され IEC 62944として新 TA で国際規格の策定が始まりました。

## 2. 新分野の標準化

### 1. 温暖化効果ガス（GHG）排出量算定ガイドライン：

TA13（AV、ICT 機器の環境規格）の PT100-8プロジェクト（主査 Degher 氏（米国／HP）Stutz 氏（ドイツ／Dell））において、昨年3月より「PC・ディスプレイの GHG 排出量算定ガイドライン（TR62921）」を作成中です。本年2月にドラフト初版が完成、その後各国 NC へのコメント募集がありました。今回の TC 100 AGM 会議にあわせ、提出されたコメントに対する議論と改版ドラフト作成のためのプロジェクト F2F ミーティングが開催されました。今後、修正ドラフトが完成次第、国際投票が行われる予定です。

### 2. ウェアラブルシステム及び機器：

AGS では、ウェアラブルシステム及び機器に関する調

査報告があり、AV マルチメディアの観点でウェアラブルシステム及び機器の標準化を検討する Study Session 8（SS 8）を設置しました。この SS 8リーダには Ms. U. Haltrich（ドイツ／ソニー）が就任しました。また、日本より、例えばテレビの音がお年寄りの人に聞こえやすいよう手元のスピーカに無線で音声を送る、というようなヘルスサポート機器の標準化について課題提起しました。このようなサポート機器も併せて検討することとし、由雄氏（パイオニア）を共同リーダに指名しました。今後、各種のユースケースを検証し、NP 提案につなげて行く予定です。



### 3. 省エネ

現在、TC 100では、IEC 62087（AV機器の消費電力測定方法）を、①共通事項、②メディア、③テレビ、④録画機器、⑤STB、⑥オーディオにパート分けして改定作業を進めています。

シアトル会議に先立ち、本年春に各パートのCDV（委員会原案）文章案を策定、各国に回覧し、改定内容に関するコメントを募集しています。

今回のシアトル会議では、最もコメントの多かったテ

レビパートを中心に、各国から集まったコメントに対する解決案を、2日間、朝9時から夜7時まで精力的に審議しました。

今後は、次回会合（日本・東京、11月）にてFDIS章を完成させ、2014年内にIS発行を目指す予定です。

また、上記6つのパートに加え、2013年4月にオーストラリアからコンピュータモニタパートの新規提案があり、シアトル会議にてプロジェクトが成立しました。

### 4. AAL Workshop

TC 100 Chairman の David Felland によるキーノートの後、次の3件のパネルが用意されました。

#### 〈パネル1 各地域の状況報告〉

どの国も、高齢者人口と障害者人口の増加への対応に直面しています。コミュニティの中で自立して生活し続けることを望むさまざまな年齢層のさまざまな能力レベルの個人を支援するために、政策が作られています。解決策を調査し、毎日の生活支援、自立生活および健康管理の分野の試験的な研究に着手するための研究を開始した政府、地域体もあります。そこで、EU、ITU-T、米国、中国、日本を代表するパネリスト達から講演をいただきました。

#### 〈パネル2 自立生活および健康管理〉

AAL（Active Assisted Living, 積極的支援生活）システムは、自立、安全、福祉、権利が肉体的、精神的に満たされるように人々をサポートするためのサービス、環境および設備によって構成されます。AALシステムは、さまざまな要素から成るため、関係者が多く、医学、技術、社会、事業の各分野の協力がようになります。消費者製品は、利用者が自分たちの健康と福祉をモニターできるように開発され、その結果はAALシステムに反映されます。

このような背景のもとに、パネル2は、影響が大き

いと思われる最先端の技術と解決策の例が、Continua Health Alliance、Bluetooth SIG および Microsoft のパネリスト達から紹介され、AALとアクセシビリティの必要性を示すユースケースが明らかにされました。

#### 〈パネル3 TVアクセシビリティ〉

高齢な利用者および障害ある利用者がデジタルTVとそのコンテンツを見ることを阻害するアクセシビリティとユーザビリティの障壁があります。

音声記述のようなアクセスサービスはありますが、字幕等が今なお主流であって、クリーンオーディオ、音声記述、テキスト・トゥ・スピーチなどのユーザインタフェースの追加サービスはまだ誰にでも利用可能であるわけではありません。これらは、高齢の利用者および障害をもつ人をデジタルTV市場から疎外しています。

そこでパネル3では、能力が異なる多様な利用者を支援する挑戦が紹介されました。HLAA（Hearing Loss Association of America, 全米聴覚障害者協会）、AFB（American Foundation for the Blind, 全米盲人基金）、WID（World Institute on Disability, 国際障害学会）、および北米のPanasonicのパネリストによるプレゼンがあり、IP接続、ジェスチャおよび音声コントロール、その他の革新的な解決策などの製品およびサービスが出現することが期待されました。

## 5. 時代に、ビジネスにマッチした活動

AV&IT 標準化委員会では、従来の AV 機器固有の標準化活動はもとより、最近クローズアップされてきている社会的なテーマにも対応しています。ここ数年来、IEC において、アクセシビリティや AAL、エネルギー効率・省エネ等環境関連テーマ等が話題の中心になりつつあります。これらの潮流にもタイムリーに、迅速に対応した活動を行っていきます。

TC 100が設立されて以来、約20年間、JEITA メンバーが中心となり、TC 100を通じて、国際標準化活動を行ってきました。今後は、システム、環境、次世代カーエレ、スマートグリッド等新しい分野や横断的テーマが増えてくると予想されます。JEITA メンバー企業のビジネスに資するべく、我々の強みを活かして、戦略的に、効果的に標準化事業を推進してまいります。

### 2014 民生用電子機器国内出荷データ集

2014年7月発行

JEITA 民生用電子機器（映像機器、音声機器、カー AVC 機器）統計の国内出荷実績データを時系列で取り纏めたものです。

主要掲載品目は次の通りです。薄型テレビ（液晶 10 型以上+ PDP）、BD プレーヤ/レコーダ、DVD プレーヤ/レコーダ、デジタルビデオカメラ、地上デジタルチューナ、ラジオ受信機、ステレオセット、デジタルオーディオプレーヤ、カーナビゲーションシステム

◆ JEITA HP よりご購入いただけます（会員 1,944 円/会員外 3,888 円）

<http://www.jeita.or.jp/>

